



紺屋町通り・段付近

人吉の復興まちづくり、に向けて…シリーズその① 被災から1年、「人吉の町これから」をどう考えますか？ Ⅱ 個人アンケートから被災した人吉のこれからを探る Ⅱ

人吉市民 松本晋一（人吉市九日町）

はじめに

昨年7月4日の熊本大降雨水害から1年。人吉の町中は次第に空き地が目立ち始めています。被災中心部（大工町通り）で仕事をしていることもあり、被災から半年までの人吉の町中は、ただクルマだけが足早に走り、中心部すべてがゴーストタウンと言いたいくらいに、ほとんど日中も夜間も人影を見ませんでした（写真①）。人の移動のその多くがクルマでの移動だけです。

そして1年後の今、被災家屋の取り

し気持ちの落ち着きが戻ってきたようにも思われます。でも、これからこの人吉の町は、この通りは、この町並みは、どうなっていくのでしょうか？

人吉のこれからを探るために

被災から1年の今、市内各地区で復興に関する目的別、地区別の話し



② 紺屋町のマルシェ

壊しが次第に進んで、さらに空き地が目立つて来ています（人吉市街地被災現況調査）。それでも工事担当者らの朝夕お昼のコンビニに向かう動き（街歩き）が町中に目立ち始めたこと、あちこちのホテルが次第に営業を始めたこと、人吉駅前や街中にマルシェが開かれたこと（写真②）。そしてぼつぼつコロナのワクチン注射も始まり、飲食街の規制も少しずつ取れて来たのか、通りにはちらほらお店のサインが灯り始めて、この6月後半、気分的には少



① 人通りのない大工町二日町通り

合いも始まり（写真③）、これからの人吉のまちづくりの青写真、取り敢えずのゴール（5年後）を考えてみようと思う時期、これまでを改めて振り返る時に来たような気がします。

“人吉の町これから”を考える上で大事なものは、そこに住む人、そこに働く人、生活市民の皆様方、被災



③ 第3回復興まちづくり地区別懇談会

「被災した人吉のこれからを考える・アンケート」

=被災した人吉の復興とまちづくりのためのアンケートのお願いです=
(人吉市民 松本晋一 人吉市九日町)

テーマ①熊本大降雨水害被災から1年、災害を経験して見えてきたものは何ですか？

テーマ②被災した人吉に大事なこと、この町をどう創っていけば良いでしょうか？

お名前 _____ お年 歳 男 女 住所：人吉市 球磨郡 県内 県外

(お名前の記載はご自由です) 記入日：2021年 月 日

以下の番号に○と答え、その内容、理由をお書き下さい (各項共、別紙に記載可)

1、あなたは昨年2020年7月の水害で被災を受けましたか？ (1. 受けた 2. 受けない)
その内容：

2、なぜ、この熊本大降雨で水害被災が起きたと思われますか？

答え1、天災 2、人災 3、両方

理由：

3、この水害で学んだこと、まだ今、困っていること (コロナ禍のことも可)

答え：

4、今、被災した人吉の町づくりの復興写真には何が大事か、先ず何をやるべきか

答え：

5、5年後の人吉の町のあるべき姿、取り敢えずのゴール、復興の象徴・目標とは

答え：

6、住民と行政が相互にきずな、協力、つながりを持つためにはどうすれば良いか

答え：

7、皆、家と土地の所有者も違い、やりたいことも違いますが、復興に共通なこと、

皆に必要な大切なものは 答え：

8、被災した元の場所で住みたいですか、違う場所に移転しますか

答え：1、元の場所 2、違う場所 3、決められず その理由：

9、人や資金をどこから、どう持ってくればよいか、何か良い便利な方法があれば

答え：

10、肥薩線、くま川鉄道の今後について

答え：1、両方必要 2、()は不要 3、両方不要 4、判らない

理由：

11、上記以外に、今すぐやること、早期に決めること、やるべきこと、やりたいことは

答え：

12、その他、言いたいこと、聞きたいこと、不平、不満・なんでも (各項別紙に記載可)

回答有難うございます。今後の人吉の復興、まちづくりの資料として使わせて頂きます

○本アンケートを拡大複写して下記へファクス 0966-25-1360 又は郵送か持参にてご送付下さい
送付先：Fax0966-25-1360 又は (〒868-0004) 熊本県人吉市九日町 115 松本晋一宛

の少なかつた流域の方、そして人吉を離れてこの町を遠くで見えておられる方々が、現時点で、この人吉のまちづくりについて感じておられること、イメージされていること、人吉がこんな町になったらいいなあ”と思うことなど、これらをしつかりと知ること、聞くこと (ヒアリング)、それを記録しておくことが重要だと考えました。

皆様の声を形にする アンケートの方法

そこで筆者は、この町の住民、周辺地区・球磨川流域の皆様、そして本誌読者の皆様方の“復興への個人的な思い・願い”を、次頁のようなアンケート形式で探ることで、市民の声、関係者の声を元にした、これからの街のあり方、その方向性が少

しは見えてくるのではと思った次第です。

本アンケートはテーマ①熊本大降雨水害被災から1年、災害を経験して見えてきたものは何ですか？

テーマ②被災した人吉にこれから大事なこと、この町をどう創っていけば良いでしょうか？の2点についてお尋ねするものです。“人吉のまちづくりへのこれからの思い”を自由に書いて頂くことで、相互に意見を言える場の役割も少しはあるのでは思います。

そして皆様へアンケートにご回答を頂く前に、取り敢えず筆者の個人的な回答を書いてみました。これはあくまでも回答のサンプル例として書いたものですので、ご意見は自由にお書き下さい。皆様のアンケートにはお名前の記載はなくても結構です。

次号8月号では、このアンケートへの回答を頂いた皆様の回答記載内容と、私の個人的な思いを併せてご報告できればと考えています。本誌読者の皆様は勿論、ぜひ、被災した方、被災されなかつた方々の多くの立場の皆様にご回答をお寄せ頂ければ、より興味深い内容が期待出来るのではとイメージしています。

※アンケートの回答送付先はFax 0966-25-1360 松本晋一宛、郵送では熊本県人吉市九日町115 (〒868-0004) にお願致します。また当方へ直接ご持参も可能です。締め切りの期間は今のところございませんが、直近の到着分は本誌次号(8月号)の本シリーズに掲載の予定です。

7、皆、家と土地の所有者も違い、やりたいことも違いますが、復興に共通なこと、皆に必要な大切なものは

答え：球磨川を中心に皆の想いを語る場所、考える時間、ゆっくり出来る処と相談相手が必要。互いに意見を出し合い、我慢をせずに言うこと、しゃべること、それらをすり合わせる

8、被災した元の場所に住みたいですか、違う場所に移転しますか

答え：2、違う場所 その理由：なりわい補助金が利用できること、近くだが少しでも被害の少ない場所を選んだ

9、人や資金をどこから、どう持ってくればよいのか、何か便利な方法があれば

答え：その前に自分に復興イメージがあるか、そして個人資金を作る⇒どう募ればよいかが不明、県や国の資金はどうやって申請するのか、でも、もらってもどう活用すべきかはやってみないとわからない⇒なんくるないさー

10、肥薩線、くま川鉄道の今後について

答え：1、肥薩、くま鉄の両路線が必要。その理由は被災以前の日常生活が地域に重要。観光資源、産業資源、地域資源としての価値が両鉄道には十分にある。生活をいつもの日常に戻す手段の一つとなる

11、上記以外に今すぐやること、早期に決めること、やるべきこと、やりたいことは

答え：被災した現状を地図とカメラを持って青写真をつくる⇒ここにはこれが必要、それをどうつくるか、今ならこれができる、これが有れば皆に喜ばれる、他から羨ましがられるものを決めて創っていく

12、その他、言いたいこと、聞きたいこと、不平、不満、なんでも（各項目別紙に記載可）

答え：何年を目途にまちづくりをすべきか、その内容、範囲、規模は誰が決める、誰が創るのが良く分からない、それはダムや市役所造りと同じなのか、その変化を自分でどう呼込むのか

※回答をいただける皆様は、この例文にとらわれず、ご自由にご記入ください



不在1年のくま鉄

(参考資料)

- ・水戸岡鋭治「あと1%だけやってみよう」観光とは光となる場所を観に行くと、2013
- ・人吉市復興計画基本方針内容より令和2年9月 熊本県人吉市3/4P
- ・人吉市街地被災現況調査図(2021年5月7日現在) 青井の杜外苑街づくり協議会編
- ・復興まちづくりに向けた「被災市街地復興推進地域」の制度に関する説明資料 21・5・15
- ・「人吉中心市街地の復興まちづくりを考える」意見交換会資料メモ 2021年6月13日

「被災した人吉のこれからを考える・アンケート」回答例

テーマ①大降雨水害被災から1年、災害を経験して見えてきたものは何か?

テーマ②被災した人吉の街を、これからどう創っていけば良いのか?

お名前 松本晋一 お年 75歳 男性 住所:人吉市 記入日:2021年6月25日

以下の回答番号に○と答え、その内容、理由をお書き下さい

- 1、あなたは昨年2020年7月の水害で被災を受けましたか? (答え：1. 受けた)
その内容：仕事場(九日町)が床上1mの浸水で医療機械及び医院設備の一切を喪失したが、すぐに多くのご支援を得て2カ月後に復旧、診療再開が出来た
- 2、なぜ、この熊本大降雨で水害被災が起きたと思われますか、番号に○と理由を
答え：3、天災、人災の両方 理由：天災はアジア規模の異常気象による大降雨でもたらされた球磨川の異常増水、人災は平日頃の被害対策、対応の不十分さ、避難準備の甘さ。今後、天災と人災のどちらにより力を注ぐべきか⇒天災は予測不明、人災の原因をつくらないことが大切
- 3、この水害で学んだこと、まだ今、困っていること(コロナ禍のことも可)
答え：学んだこと⇒どうすれば大事なものを保全して、避難が出来るかを考えるきっかけになった。大事なものは⇒人の命、自然の恵み、人が造ったものなど、この地には多くの宝があること。
まだ今、困っていること：これからの資金繰り、なりわい補助金とは何か、それをどう申請すればよいのか、誰がやってくれるのか、貰えるのはいつなのか、それまでどうつないでいくのかが未定。特によき相談者、アドバイザーがいなのが残念。
- 4、今、被災した人吉の町づくりの復興青写真には何が大事か、先ず何をやるべきか
答え：人々が憩える場所、集える場所、食事も出来、ゆっくりなれるサロンのような場所が欲しい⇒市民や観光客が被災から動き出すためのスタート地点となる、これは被災中心部にこそ必要
- 5、5年後の人吉のあるべき姿、取り敢えずのゴール、復興の象徴、目標とは
答え：逆転の発想を持ち、地元の宝を守り、磨き、創ること
1、この町は歴史と文化、そして教育と産業を土台とした街づくり、人づくりを大事に
2、球磨川、市房山他の自然と共有するこの盆地特有の自然遺産に注目、発信する
3、ダムに沈まなかった、沈ませなかった球磨川と、この地全体を強烈に発信する
- 6、住民や行政が相互にきずな、協力、つながりを持つためにはどうすれば良いか
答え：町の中心部に羅針盤となる“人と情報センター”が欲しい、何を求めているのか、何を探せばよいのか、思い通りのものを本当につくることが出来るか、皆が迷っている。